

## 堀市郎の肖像写真展

——NYで活躍した松江出身の写真家——

1879年(明治12)、現在の松江市外中原町に生まれた堀市郎は、堀市郎は、殿町の写真家・森田禮造<sup>れいぞう</sup>の許で修行し、小泉八雲<sup>こいずみやくも</sup>の美保閣旅行にも同行して、アメリカでの写真研究を目指す動機を得た。

22歳で単身渡米した市郎は、その後ニューヨーク(以下、NY)で成功し、1920年代のアメリカで最も洗練された写真焼き付けを行う人物として知られるまでになった。

無声映画時代の国際的ハリウッドスター早川雪洲や、日本海海戦勝利の連合艦隊司令長官・東郷平八郎、政治家・新渡戸稲造や後藤新平、細菌学者の野口英世など著名人の肖像写真を数多く撮影し、ファッション雑誌『VOGUE(ヴォーグ)』にもその写真は掲載された。

この度の展示では、初公開となる市郎の初期作品を含め、時代順に市郎撮影の肖像写真を比較する。そこからは、NYの写真家で師匠であるブラッドリー(A. F. BRADLEY)の作風に深く影響を受けて、市郎独自の作風がつくりだされたことが、よく理解できる。

市郎は、NYに来てからミドルネーム「ESSNI<sup>(エスニ)</sup>」を使用するが、それ以前の写真には、右下に「I. HORI」と陰刻される。その作品は、後の市郎特有の肖像写真とは、雰囲気が大いに異なる。

1905年(明治38)から市郎は、NYのブラッドリー写真館の技師を勤める。この技師時代の1907年、師のブラッドリーが撮影した一枚は、小説『トム・ソーヤーの冒険』や『ハックルベリー・フィンの冒険』の

原作者で著名な、マーク・トウェインの肖像写真で、市郎が裏面に「小説大家 マーク トッレン先生」と書いて保存していたものである。その写真の背景はすっきりしていて、後の市郎撮影の肖像写真の特徴とよく似ている。技師時代の1909年に市郎が撮影した、後ろ向きの婦人の写真と合わせてみると、撮影と焼付の技法習得のための市郎自身の試行錯誤の跡がうかがえる。

1917年(大正6)、市郎はNY・マンハッタン五番街のビルの中で写真館を開業する。13年間、このビルの一室で多くの肖像写真が撮影された。38~50歳の最も油の乗り切った時期である。開業した市郎が、最初にしたのがヌード写真の展示であった。女性の体の線がおぼろげに強調された、非常に優雅できれいな、上品な写真である。この写真が称賛され、「写真の開拓者」とも言われて、マンハッタンで有名になっていく。

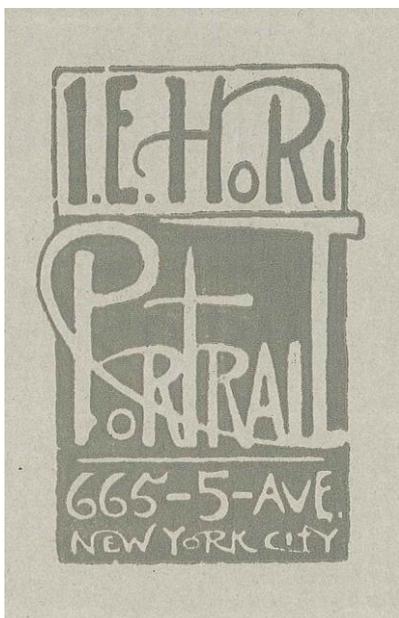
アメリカでベストセラーになった杉本鉞子<sup>えっこ</sup>の著書『武士の娘(原題英文)』の口絵は、鉞子の立ち姿で、これも市郎が撮影した。鉞子は、旧長岡藩家老の娘で、渡米して、雑誌「アジア」に半自伝的小説を連載し、1926年(昭和元)に単行本化された。

師のブラッドリーの影響を受け、市郎は、写真のなかに邪魔者が一切入らず、無駄がなく、画面内の空気がきれいで、背景がすっきりとした、空間を感じる作風を生み出していったのである。1969年没。(左 堀写真館ロゴマーク)



堀市郎肖像写真

(佐々木寛子氏提供)



【堀市郎撮影 展示写真】



ニューヨークに来る（1905年）以前の市郎撮影の写真。右下「I. HORI」陰刻あり



ブランドル写真館技師時代 1909年  
右下「Hori/09/NYC」鉛筆書き



女性二人

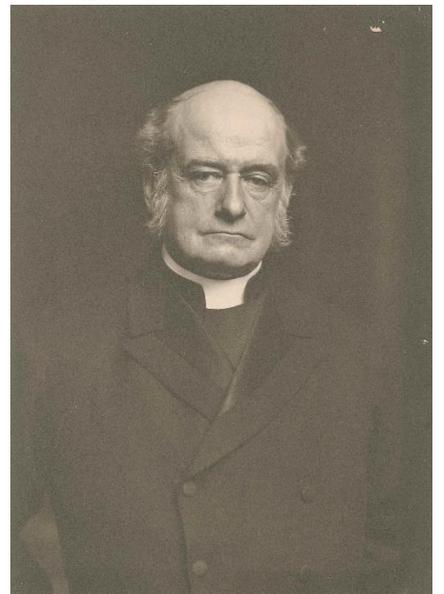


日本海海戦勝利の連合艦隊司令長官  
東郷平八郎（1917年頃）



国連事務次長として活躍していた頃の  
新渡戸稲造

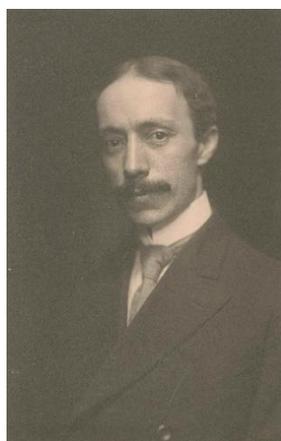
男性



親子



少年



男性



男性

その他  
展示品 杉本鉞子 (Etsu Inagaki Sugimoto) 著「A daughter of the Samurai (武士の娘)」(1926年、ニューヨーク)  
ブラッドリー撮影のマーク・トウェイン肖像写真 (1907年撮影)  
アメリカの芸術雑誌『SHADOWLAND』1922年1月号 (市郎撮影「FIGURE STUDY」掲載)

以上、佐野好作氏所蔵  
（『武士の娘』『SHADOWLAND』は除く）